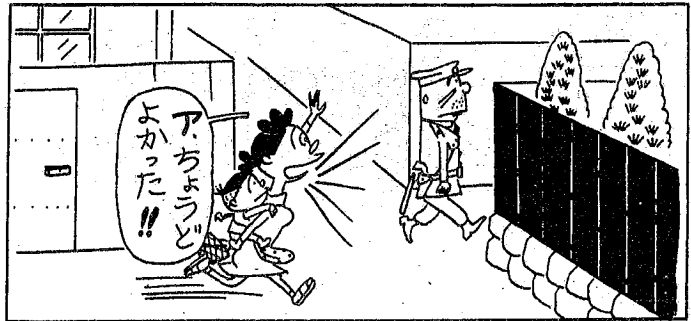
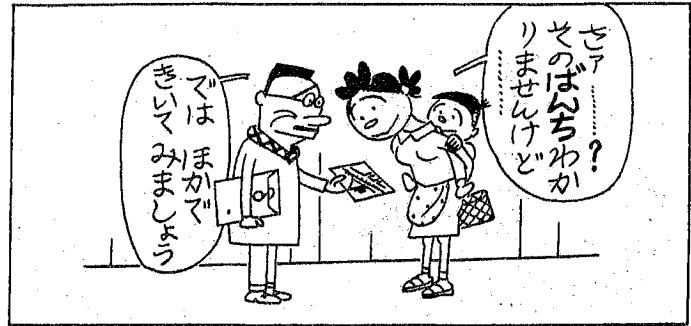


# サザエさんをさがして



1963年11月26日朝日新聞朝刊 ©長谷川町子美術館

長く絶版だった姉妹社版『サザエさん』全68巻（各巻税込み880円）が長谷川町子生誕100年を記念して復刊しました。書店やASAでご購入になれます。



## サザエさん事典

## ネタ本として使い倒した

2004年4月3日付の「カラテレビ」から、今年4月17日付の「聖火リレー」まで、beの「サザエさん」をさがしては連載開始から888回を数える。

始めた頃は「ネタ切れにならないか？」とよく聞かれた。「大丈夫です」と答えた。根拠はあった。何を隠そうネタ本があった。

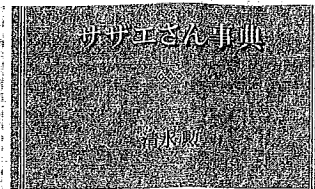
『サザエさんの正体』（1997年、平凡社）と『古きよきサザエさんの世界』（2002年、いそっぷ社）。連載の準備段階で手に入れた2冊の著者は、いずれも漫画史研究家の清水勲さんだった。すぐに会いに行った。

「サザエさん」の漫画が下りず、「サザエさん」の漫画が一切使えなかったことだ。だが、清水さんは、beの連載を「原作のおもしろさを、再び新聞読者に味わってもらえる」と喜んだ。そして著書を参考にすることも、「指南役」として記者の相談に乗ることも快諾してくれた。

「結構手間暇かかっています。すぐ売れたわけではありませんが、愛着がある本なので、『事典』に仕立て直したんです」

be編集部蔵書も今は『事典』になっている。初代の『古きよき』はボロボロになって現役を退いた。「さがして」の連載のために生まれたような一冊だった。

今回の掲載作は、この本を初めて読んだときから注目していたのに、記事にはできていないテーマの漫画だ。清水さんの個人的な経験に根ざした解説と共に味わってほしい。



# 古きよきサザエさんの世界



清水勲

『「の正体」は、新聞に載ったのに単行本に未掲載だった作品（現在はほとんどが『おたからサザエさん』に収録）が約700点にのぼることを明かしたうえで、登場人物のキャラクター論を展開する。『古きよき』は、「サザエさん」で描かれた昭和の風俗や世相、習慣、モノ、ヒト、言葉など500以上の項目が編年式にまとめられる。巻末にはあいさとお順の索引が付く。

特に後者は、新連載とコンセプトが重なっていた。違っていたのは、こちらが長谷川町子美術館の全面協力を得ることになっていたのに対し、清水さんの著書は許可

「サザエさん」に関する清水勲さんの著書。清水さんはほかに漫画・風刺画に関する膨大な著作を残した

「サザエさん」の漫画が下りず、「サザエさん」の漫画が一切使えなかったことだ。だが、清水さんは、beの連載を「原作のおもしろさを、再び新聞読者に味わってもらえる」と喜んだ。そして著書を参考にすることも、「指南役」として記者の相談に乗ることも快諾してくれた。

連載で清水さんの名前が登場するのは計37本。思ったよりも少ない。だが、実際には初回の「カラテレビ」をはじめ、「女性週刊誌」「ちゃぶ台」「精神安定剤」「加藤二三」など、『古きよき』の項目からテーマを見つけていることはいくらでもあった。

2013年、この本は『サザエさん事典』に改題されて、今も新品で購入できる。版元のいそっぷ社は、首藤知哉さん(68)が、ほぼ1人でやっている出版社だ。

首藤さんは1992年に『磯野家の謎』をベストセラーにした出版社出身。『の正体』を読んで、消えたモノやコトだけを集めた本を思いつき、清水さんに執筆を依頼したという。項目選びにあたっては、首藤さん自身も「サザエさん」の単行本を何度も読み直し、著者に書いて欲しいことをノ

今回の掲載作は、この本を初めて読んだときから注目していたのに、記事にはできていないテーマの漫画だ。清水さんの個人的な経験に根ざした解説と共に味わってほしい。

「昔は立ち小便、通称タチシヨも日常的に見かけた。中学生時代、私の育った（東京都）大田区馬込はまだ林や畑があちこちであり、学校帰り、京浜国道からそれて小道に入ってきた高級自動車から外国人男性が下りて林の中でタチシヨするのを見かけた」

清水さんは3月2日、81歳で亡くなった。渡せなかった感謝状の代わりにこの記事を書かせてもらった。（坂本哲史）